

輸 血 部

1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

2 教員の異動状況

中辻 理子（講師）（S61.7.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakatsuji T: Protective importance of HLA compatibility of a donor and recipient and CD27 gene expression on recipient lymphocytes in living donor kidney transplantation. The Journal of the Hellenic Society of Haematology (HAEMA) 9: 256-263, 2006.
2. Nakatsuji T: Rat graft versus host reaction (GvHR) protected by both host subtotal thymec-

tomy and Thy-1⁺/beta-2-microglobulin-negative (β_2M) cell selection from donor bone marrow (BM), and rat BM graft rejection protected by the donor cell injection in the spleen of sub-totally thymectomized (Tx) hosts. HAEMA 9: 546-556, 2006,

3. Nakatsuji T: A comparison of haemophagocytic syndrome signs in aortic aneurysm and angina pectoris cases at postoperative death: HPS diagnosis and prediction. Comp Clin Pathol 16: 77-84, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

第54回日本輸血学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本輸血学会 評議員

日本輸血学会, 東海支部会 幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

1回, Pediatric Nephrology (Germany)

1回, European Journal of General Medicine (Turkey)

9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 約20年持続し, 継続した「テーマ」①腎移植とHLA (人間), ②胸腺摘出と骨髄移植 (動物基礎実験 ③) 輸血と副作用 (人間) についてまとめる事が出来, 外国の雑誌に論文として, 発表出来た。